

第2節 潤いのあるまちをつくる

分野目標 4 心を潤す豊かな自然を守ります

本市は、加賀藩前田家の文化振興策によって加賀友禅や加賀毛針等の伝統工芸、加賀野菜や日本酒などの食、文学など、様々な文化が発展してきましたが、その根幹には、豊かな自然環境があります。

これらは、市民が心を潤す貴重かつ固有の財産であるとともに、自然とともに生活し、様々な恵みを受けている私たちが、次世代に引き継ぐべきものです。

本市は、新たな価値を創造し続ける都市の根幹ともいえる歴史や伝統、学術・文化を育む豊かな自然を守ります。

(1) 生物多様性の確保

本市の豊かな自然環境には、多くの動植物が生息・生育しています。一方で、住宅地の拡大など都市化の進展等により自然環境が損なわれ、動植物の生息・生育環境を脅かしています。

本市では、多様な動植物の生息・生育環境の保全や外来生物の対策を強化することにより、生物多様性を保全していきます。

生物多様性の確保

① 希少な動植物の保全

② 外来生物の対策強化

③ 野生鳥獣の保護及び管理

① 希少な動植物の保全

本市には、クマタカやサシバ等の猛禽類、ミゾゴイやシロチドリ等の鳥類、ユキツバキやトキワイカリソウ等の日本海要素と呼ばれる様々な植物をはじめとして、様々な動植物が生息・生育しています。

また、本市では、昭和62年度からホタル生息調査を実施し、その結果を金沢ホタルマップとしてまとめています。一時期ホタルが減少していましたが、市民団体や住民の協力を得ながらホタルの保全活動が推進され、ホタルが見られる地域が増加しています。



クマタカ
石川県白山自然保護センター提供



シロチドリ



ユキツバキ



ゲンジボタル

第2節 潤いのあるまちをつくる

このような動植物の生息場でもある自然豊かな地域を保全するため、県立自然公園と県自然環境保全地域が指定されています。また、本市の条例に基づき指定した金沢市自然環境保全区域や希少な種が生息している地域と協定を締結するなど、市民と協働しながら希少な動植物を保全する取り組みを進めます。



カタクリとギフチョウ



カモシカ

② 外来生物の対策強化

本市では、アライグマなどの特定外来生物の分布状況の把握に努めるとともに、オオキンケイギクやアレチウリについては、防除実施計画に基づき、市民等の協力を得ながら、駆除を実施しています。また、スジアカクマゼミ等の外来生物が生態系に影響を及ぼす可能性も危惧されているところです。



オオキンケイギク
(特定外来生物)



アレチウリ 環境省提供
(特定外来生物)

本市は、特定外来生物等による、生態系や人の生命・身体、農林水産業への被害等を防止し、市民生活への影響がないよう、国が定める「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に規定された、飼養、栽培、保管、運搬、輸入等の取扱い規制を踏まえ、必要な防除作業等に取り組めます。



アライグマ 環境省提供
(特定外来生物)



スジアカクマゼミ
(外来生物)

③ 野生鳥獣の保護及び管理

本市は、国が定める「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づき、人と野生鳥獣との共生の確保及び生物多様性の保全を基本として、野生鳥獣による被害防止及び適切な保護と管理に取り組めます。

各主体の取り組み・例

市民

- 大人も子どもも身近な自然に触れる機会を持ち、希少な動植物の保全や外来生物対策、野生鳥獣の保護等に興味・関心を持ちます。
- 市民団体や行政などが行う環境保全活動や調査に、積極的に参加します。

市民団体等

- 動植物の保護や調査、身近な自然の大切さ・すばらしさについて情報を発信します。
- 地域や学校、市民等が参加する自然体験イベントや環境保全活動を実施します。
- 生物多様性の保全について、事業者や行政などと連携・協力した活動を行います。

市

- 洞窟に生息するコウモリなど希少な哺乳類の保全に努めます。
- 日本で一番長いハッタミミズなどその他の希少な生物の保全に努めます。
- ブラックバスやアライグマ、オオキンケイギクなど特定外来生物に指定されている生物の生息・生育状況の把握に努めるとともに、防除対策を市民と協働で推進します。
- けがや病気の野生鳥獣の救護に努めるとともに、有害鳥獣捕獲許可制度の適切な運用に努めます。

Column

金沢ホタルマップ 30年の歩み

金沢ホタルマップは、市内子ども会の協力によるホタル生息調査をもとに作成しています。

この調査は、昭和62(1987)年に始まり、毎年、子どもたちとその保護者がホタルを観察し、平成29年で31回目となります。

調査を通じて子どもたちが身近な自然を知り、美しい水や環境を守っていかうとするきっかけをつくとともに、市内の水辺環境における自然度を評価する基礎資料になっています。

本市の金沢版生物多様性戦略(平成28年3月策定)では、「ホタル観察数1万匹、ホタル生息調査参加人数1万人」を目標の一つとしており、今後とも、子どもたちや市内のホタル保全団体とともに、地域の自然や水辺環境、多様な生きものを保全していきます。



第2節 潤いのあるまちをつくる

(2) 水と緑あふれるまちづくりの推進

本市では、奥山から海までを犀川、浅野川の二つの河川が貫いています。さらに市街地や水田地帯には河川からの用水が流れ、この河川や用水脇の緑を動物が移動しています。

市街地を中心として公園や緑地を整備し、公共空間などの緑化を進め、身近に水と緑に触れ合える環境を拡充するとともに、森づくりの推進や農林水産業の振興により森林、農地の多面的機能を保全し、市民、事業者等と連携して水と緑あふれるまちづくりを推進します。

水と緑あふれるまちづくりの推進

- ① 水と緑のネットワークの形成
- ② 森づくりの推進、里山の活性化
- ③ 農林水産業の振興

① 水と緑のネットワークの形成

本市は、周囲を日本海や医王山系に連なる山々に囲まれ、三つの丘陵とその間を犀川、浅野川が流れています。犀川、浅野川には豊かな水域の生態系が見られ、源流部から下流部までそれぞれの環境に合わせた水辺の生物が生息しています。また、この二つの河川を軸に、そこから流れ出る55本の用水は網の目のように張り巡らされており、水生生物やホタルの生息地ともなっています。



犀川から望む河川敷と医王山系

医王山系から緑の回廊が丘陵地、台地の斜面を経て市街地の本多の森、兼六園、金沢城公園へとつながっており、良好な自然が維持されています。この緑の回廊は、まちなかの貴重な自然として市民に憩いと安らぎをもたらすとともに動植物の生息・生育地となっています。

本市では、このような良好な水と緑のネットワークが形成されており、その連続性を確保し安定した生態系を維持するために、魚類や水生生物の生息環境に配慮した水辺環境の整備や条例による斜面緑地、川筋景観の保全、都市公園の整備や緑化の推進など、ネットワークの保全に努めます。

② 森づくりの推進、里山の活性化

エネルギー資源利用の転換や産業構造の変化、過疎化・高齢化による担い手不足や木材生産の停滞等により森林及び里山が荒廃し、木材の供給をはじめ、水源かん養、土砂の流出防止、自然環境の保全など、市民生活を支える重要な役割が失われつつあります。

さらに、イノシシやニホンザル、ツキノワグマ等の生息範囲が人里近くまで拡大し、農作物への重大な被害や市街地への出没により、生活環境への影響が出ています。

本市は、森林、里山の機能の向上と森林の整備を推進するために、林業従事者のみならず市民、事業者、市民団体、研究機関、行政など、多様な主体の連携による森づくりと里山の活性化を推進します。

③ 農林水産業の振興

生物のすみかとなるなど、生物多様性と密接に関わる農林水産業について、生産性の向上や省力化を最優先に取り組む産業振興の考え方から、環境との共生や人の健康にもやさしい基幹産業としての農林水産業のあり方を見直します。また、6次産業化による加工品を含むブランド化により、国際競争力の高い魅力と活力のある産業として再生する取り組みを支援するとともに、地域における地産地消や食文化の継承を推進します。

市民や事業者、市民団体等との協働により、自然環境との共生を図りつつ、自然資源を適切に管理し、持続的に利用できるよう資源の保全・回復を図る資源管理の取り組みを進めます。

第2節 潤いのあるまちをつくる

各主体の取り組み・例

市民

- 本市の豊かな水と緑のネットワークについて理解を深めます。
- 敷地内の緑化やグリーンカーテンづくりなど、身近な環境の緑化に取り組みます。
- 森づくりや里山活性化等のイベントに積極的に参加します。
- 地産地消を実践するとともに、金沢の食文化への理解を進めます。

事業者

- 事業活動におけるグリーンインフラの積極的な導入に取り組みます。
- 水と緑の環境整備に配慮した事業活動を行います。
- 森づくりや里山の活性化、農林水産業の振興に協力します。

市民団体等

- 本市の豊かな水と緑のネットワークを理解する機会を提供します。
- 水と緑を保全する活動を実施します。
- 森づくりや里山活性化につながるイベントを開催します。
- 地産地消や金沢市独自の食文化について理解を深める機会を提供します。

市

- 潤いや安らぎの場であり、市民生活にも活用されているわき水を保全します。
- 多自然型川づくりの導入により水生生物の生息・生育空間を確保するなど、身近な自然の回復に努めます。
- 保存樹・景観樹の保全に取り組みます。
- 間伐材など森林資源の活用拡大に取り組みます。
- 地域資源を生かした農林水産業の6次産業化など農林水産業の振興に取り組みます。
- 地産地消や金沢市独自の食文化について理解を深める機会を提供します。

Column

金沢の自然と文化の関わり

本市では加賀友禅や加賀毛針など、数多くの伝統工芸が今日まで継承されています。このような伝統工芸は、生物多様性の恵みを工芸品の素材として活用し、花鳥風月などを文様に用い、気候風土の特徴をうまく技法に利用するなど、自然の恵みを受けて作り出されたものの一つです。



「虫喰い」の技法

金沢の自然が育んだ加賀友禅

加賀友禅では図柄に花など自然風物を用います。例えば、植物の葉に「虫喰い」と称し、木の葉が虫に食われた様子がそのまま表現されるなど、自然の美しさ、おもしろさが描かれています。

染色後に余分な染料や糊を川の冷たい流水で洗い流す「友禅流し」は金沢の冬の風物詩として知られており、のりが洗い流された跡は白く細い線として残り、友禅の優美さを引き立てます。

金沢の寒い冬と浅野川などの清流を巧みに活用した技法はまさに金沢の自然を基盤として発展した文化といえます。



友禅流しの風景

本節の主要施策に関連する数値目標

目標	現況値		目標値	
ホテル観察数	H28 (2016)	7,491 匹	H39 (2027)	10,000 匹
森林整備面積（市営造林地除く）	H28 (2016)	181 ha/年	H37 (2025)	200 ha/年
農地の日本型直接支払制度※2の取組面積	H28 (2016)	2,631 ha	H37 (2025)	2,740 ha

※2 農業の持つ多面的機能の維持・発揮のため、地域活動や営農活動に対して行われる支援制度